



平成29年度WAM助成フォーラム
「事業継続・自立化に向けた事業運営のヒント」
～地域ニーズに基づく事業展開のコツ～

特定非営利活動法人 楽笑
理事長 小田 泰久

自己紹介・地域紹介

名前：小田泰久（おだやすひさ）

所属：NPO法人楽笑 理事長

平成19年設立、障害者総合支援法に基づく福祉サービスを中心に事業を行う。

(一社) start from Miya 代表理事

平成26年設立、協働のまちづくり、青少年育成イベントを中心に事業を行う。

その他：NPO法人全国地域生活支援ネットワーク 事務局長

(一社) 蒲郡青年会議所 2016年度 第60代理事長

人口

蒲郡市人口 80,630名

(高齢化率 29.5%)

蒲郡市三谷町人口 12,691名

(高齢化率 31.6%)

産業

農業（みかん・マイクロトマト）

漁業（ニギス・メカリ）

繊維業（繊維ロープ・三河木綿）

観光業（温泉・ラグーナ蒲郡）





私たち特定非営利活動法人楽笑の様々な想いや、福祉サービスを中心とした活動・運営施設についてご紹介します。

特定非営利活動法人楽笑 経営理念

障がいがある方でも、そうでない方も自分の好きな地域で暮らし続け、そして地域の人と共に生きられるような普通の社会の実現を目指し、楽しく笑いに満ちた街づくりをより多くの人と協働し、活動します。

就労継続支援B型事業 / 生活介護事業 / 相談支援事業 / 放課後等デイサービス事業
愛知県蒲郡市三谷町若宮99番9 TEL : 0533-66-6228 FAX : 0533-66-6229

放課後等デイサービス事業 キッズサポートセンター千兵衛

小学生から高校生の障がいをお持ちのお子様に対し、「余暇・体験・学習・生活」を軸に千兵衛で楽しく、できることや可能性を見つけ、伸ばしていけるようプログラムを組んで活動しています。お子様の得意・不得意を見極め、目標を決めて一緒に将来を描いています。



対象
障害をお持ちの小学1年生～高校3年生

地域
蒲郡市、幸田町、豊川市御津町、西尾市幡豆町

定休 水曜日・日曜日 **定員** 1日10名
愛知県蒲郡市三谷町十種76番地1
TEL : 0533-66-3153 FAX : 0533-66-3154

SENBEI

就労継続支援B型事業 日中支援センター 八兵衛

パン工房「八兵衛」で、パンの製造や配達・販売など障がい者の方にあった作業を提供し、就労に向けて自立できるような環境を整えています。店舗以外にも旅館のバイキングに提供されるパンや、保育園のおやつ用のパンも製造・納品しています。自信を持って地域の中で生活できるような支援を目指しています



時間 9:00～15:30 **定休** 土曜日・日曜日 **定員** 10名
愛知県蒲郡市三谷町魚町12番地1 TEL : 0533-69-1169 FAX : 0533-67-7156

HACHIBEI

RAKUSHO MAP



相談支援事業 相談支援 楽翔

障がいがあってもなくても、夢を描くのは当たり前のことです。そんな人生設計の一助となるために、一緒に考えたり、必要な・機関の紹介を行っています。蒲郡市の指定事業所として、皆様のご相談をお受けしています。



- ▶▶ 蒲郡市委託相談支援
- ▶▶ 計画相談支援・児童相談支援
- ▶▶ 指定一般相談支援事業

時間 9:00～17:00 **定休** 土曜日・日曜日
愛知県蒲郡市三谷町若宮99番9
TEL : 0533-66-6228 FAX : 0533-66-6229

RAKUSHO

生活介護事業 日中支援センター 禄兵衛

生活介護では排せつや食事の介助を必要とする方が、検温やマッサージなど体調の管理を受けながら、室内で紙すきやパン・干物の宅配、農作業などの仕事に取り組むだけでなく、創作的なアート活動を行ったり、忘年会やイベントへ参加したり楽しみながら活動をしています。



時間 9:00～15:30 **定休** 土曜日・日曜日 **定員** 20名
愛知県蒲郡市三谷町若宮99番9
TEL : 0533-66-6228 FAX : 0533-66-6229

ROKUBEI

就労継続支援B型事業 日中支援センター 十兵衛

酒屋屋「十兵衛」で、障がい者の方が魚をさばいたり、乾燥・梱包等を通して、作業に取り組む力を付けながら「働く」事への意識を高め、障Vのある方への働く支援をしています。また、食品の製造以外にも車の部品の内職作業があり、利用者の方一人ひとりの力に合わせ、個々の目標に向けた支援を行っています。



時間 9:00～15:30 **定休** 土曜日・日曜日 **定員** 10名
愛知県蒲郡市三谷町港町57番地12 TEL : 0533-66-0291 FAX : 0533-66-0292

JUUBEI



■ 水福連携事業

- ・干物という地場産業を用い、障害者の就労支援と高齢者の雇用を創出。
- ・三谷漁港を活用したまちおこしイベントを主婦層を中心に住民参画で開催。



■ 障害者芸術文化事業

- ・平成29年度障害者芸術文化活動普及支援事業受託。(厚生労働省)
- ・芸術文化を手法として企業と連携し、障害者の活動を発信。



■ 地域啓発支援事業

- ・地元のお祭り公式ホームページを障害者が各地域に出向きヒアリングを行い作成。
- ・障害者との関わりから理解、協力関係を構築。

組織変遷

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	
福祉事業	地域活動支援センター	生活介護										
		就労継続支援B型										
		居宅介護						放課後等デイ				
		パン工房										
		干物屋										
							相談支援					
												通所サービスB型(共生型)
まちづくり事業	子どもパン教室	子ども干物教室	ギョギョウランド(漁港イベント)									
		お仕事体験キッズミヤ					市民農園					
		移動販売車によるイベント販売	地域の担い手作りシンポジウム			地域の担い手作りシンポジウム				障害者芸術文化活動推進事業		
				三谷祭HP開設	ふれあいサロン			市民ギャラリー				
事業収益	介護報酬 19,307,805 助成金 5,337,775	介護報酬 30,725,401 助成金 11,899,463	介護報酬 38,567,104 助成金 8,790,000	介護報酬 53,224,046 助成金 6,269,308	介護報酬 63,055,198 助成金 12,900,796	介護報酬 71,156,661 助成金 4,816,836	介護報酬 75,230,075 助成金 8,300,000	介護報酬 85,603,763 助成金 41,664,705	介護報酬 80,530,007 助成金 7,385,522	介護報酬 85,516,741 助成金 5,281,710	介護報酬 83,695,600 助成金 8,900,000	
拠点数	1	2	2	2	2	3	3	4	4	4	4	
正職員数	2	2	4	6	8	10	9	11	11	11	13	
非正規数	6	11	16	19	24	27	26	29	30	31	34	

なぜ様々な**事業展開**が必要なのか

障害者施設の立上げ準備。

でも、地域の方から思わぬ反応が・・・。



治安が悪くなる。
障害者は三谷にはおらん。
誰が責任を取るんだ。

全力で反対される。

トドメの一言。
**大変なのは障害者だけ
じゃないぞ！**

組織合意と地域合意の必要性

～設立時の理念と現在の理念から～

～設立時の理念～

「障がいがある方もそうでない方も共に地域で暮らし続けるまちづくり」

「共に」・・・誰を指しているのか ⇒ 三谷町に関わる人・産業・文化

「地域」・・・どこを指しているのか ⇒ 三谷町

「まちづくり」・・・何を目指しているのか ⇒ まちづくりは「ひとづくり」と「しごとづくり」

～現在の理念～

福祉とまちづくりを掛け合わせる理由（平成29年度NPO法人楽笑経営方針書より）

なぜ僕たちは、福祉とまちづくりをかけ合わせなければいけないのか。

それは、普段の暮らしの幸せという「福祉」を日々の支援の中からその人が求める何かを探し求めること。そして求める何かから未来の暮らしを想像し、社会に働きかける「まちづくり」を実践すること。

今の暮らしが満たされなければ未来は考えられない。

明るい未来が想像出来なければ、まちを創造することは出来ない。

だから「福祉」と「まちづくり」は切り離せない。

三谷というまちの普段の暮らしと未来の暮らしが今以上に充実し、
「楽しく笑いに満ちたまちを創造する」ことが僕たちの使命なんだ。

組織合意と地域合意の必要性

～この事業がなぜ地域に必要なニーズをカタチ(事業)に変える～

福祉ニーズ

- ・障害者の活動の場所
- ・障害者の理解啓発



地域ニーズ

- ・主婦の働く場所
- ・地域の人が集える場所
- ・子どものおつかいの場所



事業

パン工房
就労継続支援

- ・障害者の工賃UP
- ・障害の複雑化



- ・漁港振興
- ・地場産業の担い手
- ・団塊退職者の働く場



干物屋
就労継続支援

- ・障害児のあずかりの場
- ・地域との交流拠点

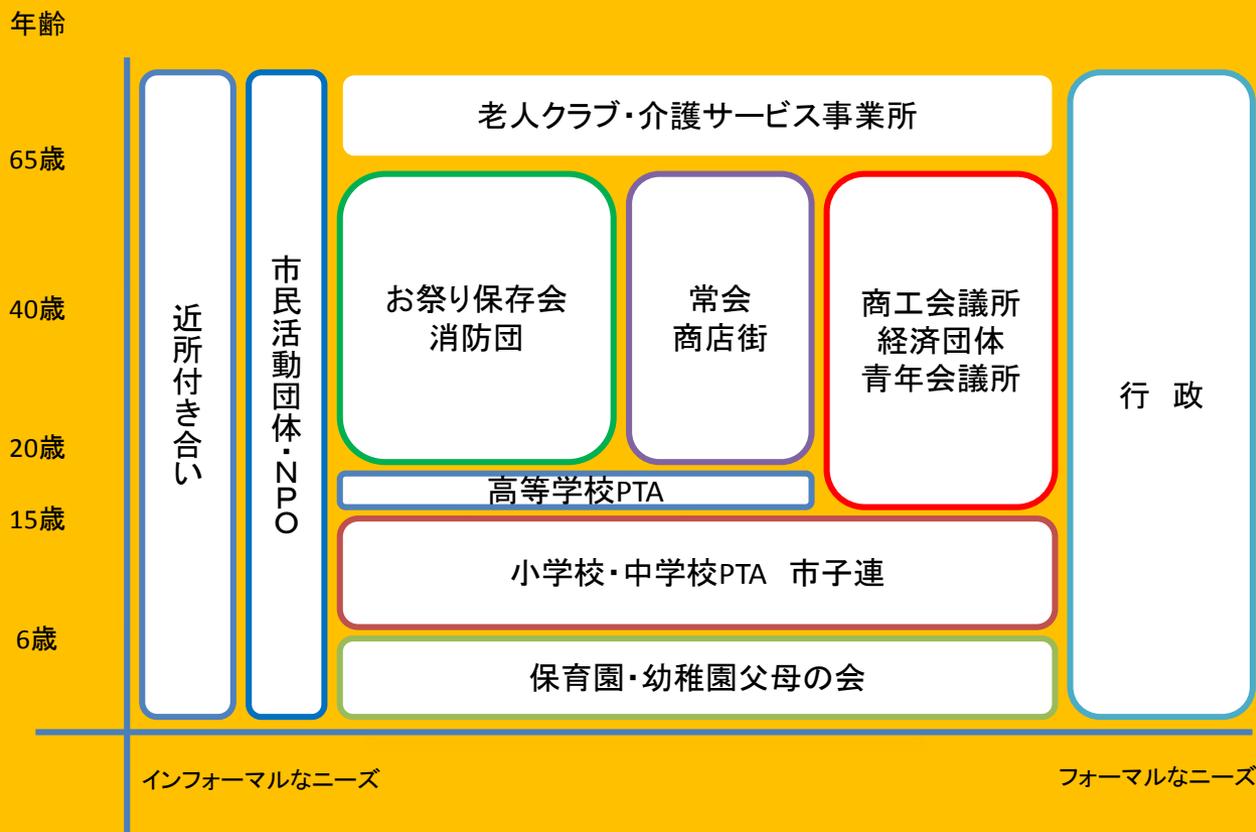


- ・のこぎり屋根を残したい
- ・介護保険のお世話になりたくない



繊維工場活用
放課後デイ
サロン

地域の想いを知るには



地域における福祉関係者以外のステークホルダーと繋がる事が大切。
決して代表自らが動くのではなく、職員、パートをはじめとする法人に関わりのある方を通じて繋がりを持つ。そこで大切なのは、**法人理念を組織内で合意できているか。**

助成金活用による成果

～市民協働による地域共生型サロン構築事業～



2014年度 福祉医療機構助成

- 今まで楽笑と関わったことのない、地域の方々との**連携**から新しい協力体制を構築。
- 行政主導のまちづくりの意識が根強く、住民が主体となりゼロから創り出す事の合意形成が難しかったが、議論を重ねるごとに理解が広がり、口コミで参加者が増えていった。

2015年度 日本財団助成

- サロンの利用者の幅を広げるために、遊休農地を活用した就農プロジェクトを蒲郡市JAと協働し実施。
- サロン参加者、地域の方々と先進地見学に先進地の方を講師として招いた勉強会を行い、**将来のイメージを共有**。事業のプロセスを記したホームページ、SNSの開設。

2016年度 日本財団助成

- 福祉・子育て・就労・地域づくりの各分野ごとにプロジェクトチームを組み、サロンの活動内容を**地域住民と共に構築**。
- 福祉分野では、通所サービスB型のあり方について、地域包括支援センターと行政と協働して協議し、蒲郡市独自のサービスを構築する。

2017年度 蒲郡市補助事業

補助金化

- 共生型サロン事業を地域型通所サービスB型及び日中一時支援を組み合わせた全国初の公的なサービスとして、地域の方々の居場所を創出。結果として、行政の横断的な対応を促すことにつながった。
- 開所日数を週1日から週2日に広げ、地域住民の希望から送迎サービスを開始。



取り組みの工夫



- ① 楽笑の実践が先駆的であり、全国から注目を浴びているという誇りを地域の方々と共有し、自らが作り上げたという愛着を持っていただくことで、協力者・参画者に繋げ、事業の必要性を発信していただく。
- ⇒ ホームページの開設やSNS、メディアによる情報発信。
⇒ 見学者や取材が増え、関係者・参加者の自信に繋がる。



- ② 福祉専門職に特化するのではなく、地元の人脈を持っている方々を積極的に地元から採用する。特に主婦層のパート。(正規職員の約半数は非福祉分野で地元採用)
- ⇒ 支援技術は日々の現場で身につけることができるが、地域の人脈と関係性は簡単には構築できない。
⇒ 主婦層のネットワークは子ども層と親層の両方のニーズを把握している。



- ③ カリスマ制の排除。職員それぞれの専門性や役割に応じて対外的な対応を任せる仕組み。
- ⇒ 「楽笑＝代表」ではなく、一人ひとりが責任を持ち地域と繋がる役割を持つことで、新たなニーズの発掘や関係性の構築をしようと自ら動くようになる。

地域の中で事業を進めるにあたり 重要だと思っていること

- 「他分野（非医療分野・非福祉分野）」と地域住民をどうやって取り組みに巻き込むか、できる範囲で参画させるかがポイント！
 - ⇒そこから地域ニーズが見え、背景と目的を明確にして、相手に伝える事で共感を生み、自分ゴトとして主体性の醸成に繋げる。
- 戦略を変えずに地域特性とニーズに合わせて戦術を一緒に考える事が法人理念の遂行に向けたひとつの手法！
 - ⇒「5年先、10年先、地域がどうなっていたいか」課題ではなく、目標を描くこと。
- 人材の育成！
 - ⇒スペシャリストとゼネラリストの両方を選択出来る環境に。

中期ビジョンを職員全員で創る

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
地域					
利用者					
事業					
スタッフ キャリア					

組織合意の一つの手法。組織外部の方をファシリテーターとして招き、代表者以外の職員で意見を出し合う。

実際に行った研修の流れとして、「地域と福祉の未来」についての代表者からの講義1回、担当部署の利用者の未来とニーズをまとめる個別ワーク1回、中期ビジョン設計ワーク1回の計3日(各半日)の内部研修を実施。

2017

2018

2019

2020

2021

全体

事業

取り組み

事業

女性上げの取組
の場が2018年
に

新拠点の
利用者の定員
25名(社務員)

法人だとおぼ
→ニズ音体

事務機能統合

新拠点に
2018年 予算は
大丈夫?

就労伴走に
ついて
きかせて下さい!
→「ニズ音体」
「ニズ音体」

途中から
大きなこと
どうかな

地域
開拓

地域の
良い場所
ができた

地域づくり
がある

出前講座で
音楽活動
できたらいい

非常時のために
全体を理解して
もらうこと
(9/20/21/22)
→「ニズ音体」

利用者の
サポート
2018年
25名(社務員)

食事も自分の
手で作ら
110(100-
100)2018年

温泉も
女子校が
(11/20/21/22)
→「ニズ音体」

入浴が
(お風呂)
「絶対」男手
が必要

重厚な
医療的ケア
が求められる
市内
にない
目か!

ホームケア
の支援
が求められる
市内
にない
目か!

成長を
感じたい

楽しい場所
として笑顔を
あふれたい

居心地の良い
居場所
にしたい

本音

宿泊体験
11/20/21/22
に自己
→「ニズ音体」

利用者の
サポート
2018年
25名(社務員)

食事も自分の
手で作ら
110(100-
100)2018年

温泉も
女子校が
(11/20/21/22)
→「ニズ音体」

入浴が
(お風呂)
「絶対」男手
が必要

「医療型生活介護」
→「ニズ音体」

利用者の
通い易
家族の
負担を

未来が
おぼろげ

楽しい場所
として笑顔を
あふれたい

居心地の良い
居場所
にしたい

1人1人
の個性

利用者の
サポート
2018年
25名(社務員)

食事も自分の
手で作ら
110(100-
100)2018年

温泉も
女子校が
(11/20/21/22)
→「ニズ音体」

入浴が
(お風呂)
「絶対」男手
が必要

「医療型生活介護」
→「ニズ音体」

利用者の
通い易
家族の
負担を

未来が
おぼろげ

楽しい場所
として笑顔を
あふれたい

居心地の良い
居場所
にしたい

1人1人
の個性

利用者の
サポート
2018年
25名(社務員)

食事も自分の
手で作ら
110(100-
100)2018年

温泉も
女子校が
(11/20/21/22)
→「ニズ音体」

入浴が
(お風呂)
「絶対」男手
が必要

「医療型生活介護」
→「ニズ音体」

利用者の
通い易
家族の
負担を

未来が
おぼろげ

楽しい場所
として笑顔を
あふれたい

居心地の良い
居場所
にしたい

1人1人
の個性

利用者の
サポート
2018年
25名(社務員)

食事も自分の
手で作ら
110(100-
100)2018年

温泉も
女子校が
(11/20/21/22)
→「ニズ音体」

入浴が
(お風呂)
「絶対」男手
が必要

「医療型生活介護」
→「ニズ音体」

利用者の
通い易
家族の
負担を

未来が
おぼろげ

楽しい場所
として笑顔を
あふれたい

居心地の良い
居場所
にしたい

1人1人
の個性

利用者の
サポート
2018年
25名(社務員)

食事も自分の
手で作ら
110(100-
100)2018年

温泉も
女子校が
(11/20/21/22)
→「ニズ音体」

入浴が
(お風呂)
「絶対」男手
が必要

「医療型生活介護」
→「ニズ音体」

利用者の
通い易
家族の
負担を

未来が
おぼろげ

楽しい場所
として笑顔を
あふれたい

居心地の良い
居場所
にしたい

どうしても目の前の課題や不安が出てしまうので、「じゃあどうする?」「だったらこうしてみたら?」という目標を見直す作業が必要になります。でも職員の率直な意見はとても大切。

中期ビジョンを職員全員で創る

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
地域	共生型サロンの充実	障害、高齢の複合サービス体系開始 医療・介護・障害分野の報酬改定	三谷漁港の閉鎖	三谷町の高齢者がピーク（高齢化率35%超）	新たな産業による活性化
利用者（障害者）	余暇活動拠点以外での活躍の場	緊急的に預かる場	入浴サービス 宿泊体験 外出支援	就労先の幅を広げる（所得をあげる）	医療的ケアに対応できるサービスが必要（特別支援学校卒業）
事業	通所サービスB型 障害者芸術文化活動推進事業	地域交流拠点構築ミーティング（新拠点設立に向けて話し合う場）	短期入所 居宅介護 地域交流事業	社会保障費に頼らない活動の場（福祉型高齢就労支援・障害者雇用）	グループホーム開所
スタッフキャリア	新規事業に伴う働き方の改革と環境整備	職員の結婚（産休・育休がとれる体制づくり） 人材確保の方法	職員増加に伴う育成体制の強化	グループホーム開設に向けた専門知識を学ぶ	人材不足を補う為に地域の人材を育てる

組織合意の一つの手法。このグループワークから組織の強みと弱みが見えてくる。
 ⇒話し合いから組織内の連携や他部署の状況把握ができていない。職員の将来（キャリア）が描かれていないことがわかる。他の福祉事業所に相談すると、同じような境遇であることがわかり、事業所間によるキャリア構造の研修システムを構築することを目的とした事業を行うことに。・・・平成29年度福祉医療機構の助成申請。

平成29年度福祉医療機構社会福祉振興助成事業 「事業所間キャリア構造研修システム構築事業」



福祉事業所経営者及び管理者・大学教授・キャリアコンサルタント・研修講師を交え、事業所の人材育成の現状ワーキング

福祉事業所職員向け現状把握アンケート
キャリアコンサルタントによる個別面談



研修内容の構築・研修の実施



